

# 第69回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成26年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（平成26年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です

## 北京大学蔵漢簡・秦簡並びに清華大学蔵戦国簡 調査報告

### 『淮南子』道應訓所引『老子』テキストの性格 ——馬王堆『老子』並びに北大漢簡『老子』と 比較して——

発表者：北京大学出土文献研究所並びに清華大学出土文献与保護中心訪問調査団  
谷中信一教授（日本女子大学）

今回の研究会において、科研「出土資料と漢字文化研究会」のメンバーが調査団を結成し、北京大学出土文献研究所並びに清華大学出土文献与保護中心を今夏に訪問し、各大学所蔵の竹簡を調査した成果を報告致します。また、北京大学出土文献研究所主編『北京大学蔵西漢竹書（貳）』（上海古籍出版社、2012年12月、定価980円）所収の『老子』を取り上げた研究発表をあわせて行います。

さて、北大簡『老子』は、馬王堆漢墓『老子』（甲本・乙本）と郭店戦国楚墓竹簡『老子』に新たに加わることにより、戦国末期から漢代にかけての『老子』テキストの変遷、同時に『老子』が經典化していくプロセスを4種の出土本『老子』を通じて直に追うことができます。ところで、これまで『淮南子』道應訓は、漢初における『老子』の引用が最も豊富な文献として注目されながらも、傳世本との異同が指摘される程度で、漢代道家思想史研究の資料として重視されていません。この道應訓所引『老子』を、思想史の時間軸に載せてみると、北大漢簡『老子』と馬王堆『老子』との間に位置づけることができます。よって、『淮南子』道應訓の思想傾向を解明するためにも、道應訓所引『老子』のテキストの性格を明らかにすることはその前提作業として不可欠でありましょう。

第69回目を迎えた今回の研究会は、調査報告を北京大学出土文献研究所並びに清華大学出土文献与保護中心訪問調査団が、研究報告を谷中信一教授（日本女子大学）が担当し、最新の情報を盛り込んだ発表をいたします。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2014年9月27日（土）午後2時～午後5時  
場所：日本女子大学百年館高層棟8階815会議室

- 使用言語：日本語      ○参加費：無料
  - 『北京大学蔵西漢竹書』（貳）の写真図版や釈文のコピーなどは、各自ご用意下さい。
- 連絡先：〒176-0025 東京都練馬区中村南1-12-5  
東京大学名誉教授 山東大学教授 池田知久  
電話：03-3926-8568